

## 福島県の温泉の概況

### 【概況】

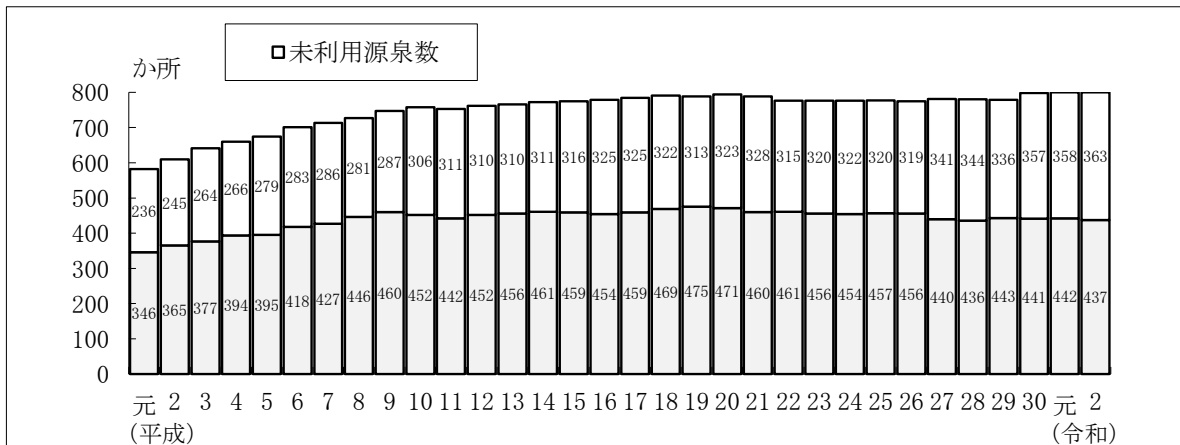
本県は、山・海・湖・川といった豊かな自然とともに、多くの温泉を有する全国有数の温泉県である。

県内には、800か所に源泉があり、そのゆう出量は、毎分約79,929Lとなっている。それらの源泉の所在地は、59市町村中53市町村（令和3年3月末現在）に点在し、ほぼ県内全域に分布している。それぞれの源泉の泉質も地域によって様々であり、強酸性から強アルカリ性、成分も単純泉から硫黄泉、放射能泉まで実に多種多様である。最近では、古くからの有名温泉地に加え、地方自治体や公益法人等による保養・療養目的の入浴施設が造られ、多くの地域住民や観光客に利用されている。また、都市部においては大深度の掘削により温泉がゆう出しており、それらを利用した温泉施設が賑わいをみせている。

しかし、景気低迷の影響等で宿泊利用人員は年々減少傾向を示しており、平成23年度は東日本大震災の影響で大幅な減少となったが、少しずつ回復傾向にある。

### 【温泉数の推移】

平成元年より源泉総数は増加傾向にあったが、ここ数年は横ばい状態であり、源泉総数に占める未利用源泉数も横ばい状態で推移している。



源泉数 800か所

(令和3年3月末現在)

利用源泉	437 (54.6%)	未利用源泉	363 (45.4%)
自噴	141 (17.6%)	自噴	130 (16.3%)
動力装置	296 (37.0%)	動力装置	233 (29.1%)

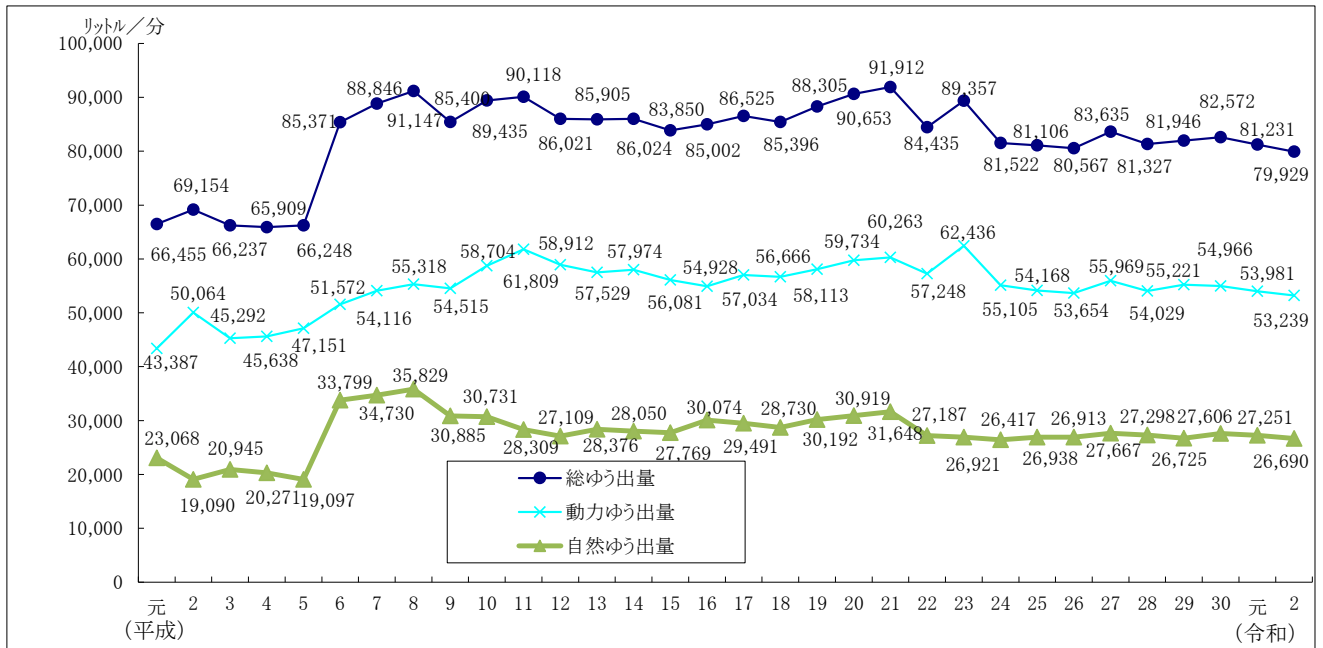
温度別源泉数 (温度測定可能な源泉のみ) 559源泉

(令和3年3月末現在)

42℃以上	252 (45.1%)	25～42℃	176 (31.5%)	25℃未満	97 (17.3%)	ガス・水蒸気	34 (6.1%)
-------	-------------	--------	-------------	-------	------------	--------	-----------

### 【温泉ゆう出量の推移】

総ゆう出量、動力ゆう出量、自然ゆう出量ともに、ここ数年ほぼ横ばいとなっている。



### 【年度延宿泊利用人員の推移】

平成19年度より若干減少しており、平成23年度は東日本大震災の影響で落ち込んだものの、その後、400万人を越える程度までに回復したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んでいる。

